

予 算 要 求 資 料

令和 3 年度 9 月 補正 予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 新現代陶芸美術館デジタルコンテンツ推進事業費（コロナ関連）

（この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください）

現代陶芸美術館 総務部 管理調整係 電話番号：0572-28-3100（内 103）

E-mail：c21802@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 補正要求額 12,850 千円（現計予算額：0 千円）

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄 附 金	その他	県 債	一 般 財 源
現 計 予算額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補 正 要求額	12,850	0	0	0	0	0	0	0	12,850
決定額									

2 要求内容

（1）要求の趣旨（現状と課題）

コロナ禍の中、感染防止対策として当館に来館することができない方でも自宅等において当館の所蔵作品を鑑賞していただけることが必要である。

当館は陶磁器の専門館であり、所蔵する作品は基本的に立体物である。しかし、現在のコレクション検索の画像は 2D である。

立体作品の魅力を十全に伝えるためには、多角度からの鑑賞が重要であり、その方法として 3D モデルを使った鑑賞が、国内外で主流となりつつある。

（2）事業内容

当館の収蔵品データの拡充と共に 3D データ化する。（選定した約 100 作品）

収蔵品を 3D データ化し、公開することにより、より現物に近い鑑賞体験を提供するとことを可能にする。

また、バーチャルな空間（例：小さなギャラリー空間など）を作り、作品

を展示する。そこでは作品に触れることができ、通常では見ることのできな
い角度からの鑑賞（作品の裏側等を鑑賞）、さらに、スケールを変えた鑑賞（自
らが茶碗の中に入り作品の中から鑑賞する等）も可能になり、所蔵作品の新
たな価値の創出に繋がるとともに、当館の魅力、岐阜県が誇るやきもの文化
を国内外のより多くの方に楽しんでもらう。

なお、3D データは一般来館者向けのコンテンツのみならず、作品研究のた
めの基礎データや作品保存管理にあたってのバックアップデータとしても
活用可能である。

（3）県負担・補助率の考え方

県が設置運営する施設であるため県の経費負担は妥当

（4）類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
需用費	12	消耗品費
役務費	12	通信運搬費
委託料	12,826	別紙積算のとおり
合計	12,850	

決定額の考え方

4 参考事項

（1）各種計画での位置づけ

岐阜県DX推進計画（策定中）

（2）国・他県の状況

国内：滋賀県立陶芸の森 国外台湾新北市立鶯歌陶瓷博物館

（3）後年度の財政負担

令和4年度当初予算要求（維持管理経費）

（4）事業主体及びその妥当性

県：美術館を運営・管理

事業評価調査書（県単独補助金除く）

<input checked="" type="checkbox"/>	新規要求事業
<input type="checkbox"/>	継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

コロナ禍の中、当館に来館することができない方でも自宅等において当館の所蔵作品を鑑賞していただけるようにする。

当館の所蔵する作品は基本的に立体物であるため、立体作品の魅力を十全に伝えるためには、多角度からの鑑賞が重要であるため、作品データを3D化し、公開することにより、より現物に近い鑑賞体験を提供する。

また、通常では見ることでできない角度からの鑑賞（作品の裏側等）やスケールを変えた鑑賞（自らが茶碗の中に入り作品の中から鑑賞等）等、所蔵作品の新たな価値の創出に繋げるとともに、当館の魅力、岐阜県が誇るやきもの文化を国内外のより多くの方に楽しんでもらう。

さらに、コロナ終息後は来館していただき、現物を鑑賞していただく。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
				(前々年度末時点)		
入場者数	(H)	33,645 (H29)	69,852 (H30)	24,976 (R1)	12,700 (R3)	%

※R3の目標値が低いのは企画展の開催回数が少ないためである。

○指標を設定することができない場合の理由

（前年度の取組）

（前年度の成果）

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い	
(評価) ○	美術館の魅力、岐阜県が誇るやきもの文化を国内外のより多くの方に楽しんでいただくためには、所蔵作品を3Dデータ化し、自宅等でも、より現物に近い鑑賞体験を提供する必要がある。
・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない	
(評価)	
・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある	
(評価)	

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 来館者のニーズを踏まえながら、3Dデータ化の作品数の追加などさらなる内容の拡充や広報が課題である。
--

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか オンラインを活用した、展示作品の新しい鑑賞体験を提案していく。
